

黒松内岳ブナ林再生プロジェクトの2010年度活動報告と 林内のブナ苗畑作りについて

黒松内岳ブナ林再生プロジェクト実行委員会
実行委員長 新川 幸夫
事務局 齋藤 均

1. 課題を取り上げた背景

ブナ北限の里「くろまつない」の一つのシンボルである黒松内岳（標高739m）の山腹には、元々あったブナ林が伐採され、その後森林の更新がうまくいかず、一面のササ原やブナ以外の樹木の疎林になってしまっている場所が多く見られます。そこで、元々あったブナ林を再生しようと、2007年より本格始動したのが本プロジェクトです。

プロジェクトの主な目的は、「黒松内岳に元々あったブナ林を再生すること」「北限域におけるブナ林再生技術を確立すること」「地球温暖化防止に貢献すること」などです。

後志森林管理署と協定を結び、国有林内の昔ブナを択抜した落葉広葉樹の疎林4haを再生予定地としてご提供いただき活動を行っています。

2. 取組みの経過

2010年度の主な活動内容は、以下の通り。

- ・講演会、総会（毎年、総会と同時に森づくりに関係する講演会を実施。今年は町に移住してきた林業の専門家内田健一氏の講演）
- ・春の霜対策（ブナの開葉時期から遅霜が終わるまでの期間、霜が降りそうな晩に、寒冷紗の上にブルーシートを掛けて、霜を防ぐ）
- ・春の種まき（再生予定地、苗畑、ブナ林内、ミズナラ林内に1㎡あたり1000粒の種をばらまき実生を密生させ育苗する試み）
- ・渡島半島のブナ林ツアー（様々な北限のブナ林を見るという目的で毎年行っているツアー。今年は美利河二股自然休養林）
- ・山取苗の移植（札幌からのブナ林再生植樹ツアー実施）
- ・種子集め（ネット3枚設置、今年はブナの実不作）
- ・秋の苗畑管理作業（種子が集まれば秋まきの予定だったが、ブナ不作のため、苗畑の寒冷紗撤去のみ）

3. 実行結果

■苗畑の管理について

遅霜対策として、寒冷紗は張りっぱなしで霜の危険のある夜に上からブルーシートを掛けるという方法を試してみました。結果、霜害は防げましたが、夏の水分不足や、根切り虫など、次々と課題が発生。

■春の種まき、林内の苗畑作りについて

春、遅霜が終わった後の苗畑や、自然に近い状態で苗を育成する試みとして、春のフェノロジカルギャップ（ブナの開葉時期から10日間ほど遅れて開葉する木の樹冠下）にブナの種子を春まきしてみました。

添別ブナ林では、ほとんど芽が出ませんでした。再生予定地やミズナラ林樹冠下では、ある程度芽が出ました。

■町外からのブナ林再生植樹ツアー、山取苗の移植について

プロジェクト始動当初から、実施しなかったツアーを初めて実施。参加者20名。1日目：山取苗の移植、交流会。2日目：歌オブナ林散策。

■種子集めについて

今年度は、渡島半島全体でブナは凶作。春に花を咲かせた個体は結構ありましたが、夏の虫害で未熟なまま落ちた個体が多く、秋の実はほとんどがしいなでした。また、種子が落ちる時期が遅く、初雪が早く、ネットの上に雪がどっさり積もってしまい、ネットが穴だらけに。

4. 考察

苗畑での育苗は、手を掛ければ可能であることが分かりましたが、今後も効率的な育苗方法を検討していきます。その一環として、林内の苗畑作りを始めましたが、順調に発芽した場所と発芽しなかった場所とがありました。この理由を探るため、来年種子が集まったら、再来年の春に、水分や光の条件を変えて実験をしてみたいと考えています。

今年度は、（財）北海道環境財団と黒松内町との連携事業「北限のブナ林再生・保全プロジェクト」の一環として、サッポロホールディングス（株）の寄付金と郵便事業（株）の助成金とで活動を行いました。この実行委員会の経費は、多くの企業・団体・個人の賛助金で賄われています。この場を借りて、厚く御礼を申し上げます。